

平成26年度事業計画書

自 平成26年4月1日

至 平成27年3月31日

社会福祉法人 こぼと会

あおぞら保育園

社会福祉法人こばと会 あおぞら保育園 26 年度事業計画

「根拠のある保育」をスローガンに、二年間にわたり感覚統合の研修を深めてきました。子どもの行動に対する考え方も科学的視点が入ることにより、職員一人一人の思いの違いに左右されることなく、共有して保育にあたることができるように変化しています。

保育の世界は、育児が中心となるためことさら保育への思いが強調されやすい環境です。そのため、ひとり一人の生活環境に由来する哲学が意見に反映されやすく、共通理解のできない状況を自分たちで進めてきた経緯があります。科学的視点を入れるという事は、こういった思い込みの世界に安住するのではなく、具体的な課題点を共有することで思いの共有ではなく、共有を通しての同調を促す効果があることがわかりました。子どものために根拠を持つことが、実は大人同士の共有作業を作り出し、同じ思いで仕事をすることの重要性を具体的に提示してくれることになったのです。

ですので、今年度も引き続き感覚統合を含めた“科学的視点”を取り入れた保育を継続して取り入れていきます。特に、就学に向けたアプローチの中で、「姿勢を作る」をテーマに0歳児～年長まで一貫したテーマを持ち、各クラスが連携してチェックできる体制を作っていきたいと考えております。

次に、昨年度始めた大きな変革として「理念」の変更に伴う職場意識の改善が挙げられます。理念を基に自分の行動意識、規範がどのように変化していったか、理念を基にクラスや職員会議で話し合うことを重ねた結果、行動様式の大きな変化が見られました。とはいえ、まだ1年目、この変化がしっかりとした変化に結びつくよう3年間を一つの期間としてとらえ、着実な運用に結び付けたいと考えています。今年度は上位下達的方式から、各クラスでの課題提起により、意識の向上を図っていききたいと考えております。

保護者への支援についても職員の共有化と同様なことが考えられます。以前より進めてきた情報の透明化により、保護者の態度に変化を感じてきました。共有化を図るにはそれなりの専門知識が必要なため、こちらの説明能力が問われることになってきます。現実を切り取る作業、そしてそれをどう表現できるのか？こうした具体的な取り組みとして課題を持って進めていききたいと思えます。

1 施設運営

(1) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
ひよこ組	0歳	3名	10名	
りす組	1歳	3名	16名	
うさぎ組	2歳	3名	20名	

きりん組	3歳	2名	26名	
ぞう組	4歳	2名	26名	
らいおん組	5歳	2名	26名	
ぱんだ組	一時	2名	20名定員	
ひだまりルーム	地域	0歳児 1歳児対象		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
25	24	25	26	26	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月

幼児 年2回（4月、10月）

歯科検診 年1回（6月）

蟯虫卵検査 年1回（5月）

エ 保 育

保育目標

冒頭分にある通り3つの考え方の中から、特に感覚的統合、理念の徹底については乳児、幼児というグループの中で共通認識を持ち、それをクラスの中で体現していく方式に今年から取り組みます。

乳児の保育

一人ひとりの月年齢にしっかりと基準を作り、今必要なことは何かという具体的な提案がいつでもできるような保育を引き続き目指す。あくまでも3歳（36ヶ月）が大きな目安であり、生活習慣の自立が一人でできるのか、それとも大人にやらされているのか、しっかりと見極めた援助ができるようになることが目標である。

そのためにも、科学的な根拠として感覚統合的視点を取り入れ、まずは「体幹を育てる」ことをメインテーマとして、3年齢共同で高っ札を進められるようにしていく。

次に、理念の徹底に関しては新人職員が入職クラスを中心に職員間の伝達と説明能力を高めることに主眼を置いて取り組むことにすることを目標とする。

幼児の保育

就学という一大イベントに向け、授業に積極的にかかわれる子どもたちを育成するため、感覚統合の科学的な視点を取り入れる。チーム制を導入し、クラス単位で考えるのではなく3～5歳の連続性の中で職員相互が共通理解できる体制を整えていくことを目標とする。

理念については、パート職員への会議を毎月行う中で、職員自らが説明、評価できることを目標に掲げ、意識の向上を図っていくことを目標とする。

地域事業

地域事業では、今年度も一時保育、地域ルームを中心に行っていくが、地域ルームでは、0・1歳児に合わせた活動を行っていくことを大きな目標とする。また、新たに学童クラブでの保育広場事業を展開する予定である。

0歳児・・・0歳児該当年齢の親子は、広場事業を継続して行う。登録制を基本とし、毎週2日を対象日とする。

1歳児・・・今年度もNOBODY'S PERFECTというプログラムを（6回の連続講座）2クール行う。昨年登録した対象者に向けてのものと、今年度0歳児登録した方を中心に展開していく（保健師）

保育広場・・・今年度より学童クラブを中心とした保育広場の設置を考えている。保護者にとって育児は大きな喜びである。が反面、子育ての経験がまったくない中での育児は、大きな課題でもある。現代では、インターネットの普及による情報の氾濫があり、何を下に子育ての相談をすればよいか悩む事一入の事と想像される。そういった意味では、保育園の存在自体が社会にとってのかけがえのない資源であり、少しでも社会に対する有効な情報開示を行わなくてはならない。この保育広場を進めるに当たり十分に認識しながら専門家としてのアプローチ法を確立したいと思う。

主な行事予定	4月	入園式、保護者懇談会
	5月	遠足
	6月	お泊まり保育
	7月	プール開き、夕涼み会
	9月	保護者懇談会（茶話会含む）
	10月	運動会
	10月	ハロウィン行事

- 1 1月 遠足
- 1 1月 収穫祭（保護者との合同）
- 1 2月 お餅つき
- 1月 子ども会、
- 2月 保護者懇談会、新入園説明会
- 3月 お別れ遠足、卒園式
- 月例行事 誕生会

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

交通安全教育（ 9月予定 ）
非常災害時の避難訓練
引き渡し訓練の実施（ 9月 1日）

（2）職員の処遇

ア 職員構成

園 長	1名
主任保育士	1名
保 育 士	19名
調 理 員	4名（栄養士含む）
保 健 師	1名
用 務 員	1名（非常勤）
嘱 託 医	1名（非常勤）
非常勤、パート	24名

イ 健康管理

健康診断 年 1回（ 4月）
細菌検査 年 2回
給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1回

行事前打合せ会（随時）
研修会議 毎月 1回
リーダー会 （随時）

エ 研修計画

- クマファクトリー横山氏による実践保育研修（年3回）
- 毎月園内研修会議を行う
今年度も引き続き家族支援・感覚統合についての研修を専門家を招きながら
推し進めていきたい
- リーダー研修会議（日本能率協会主催：こぼと第一保育園と共催）

オ 退職・福利厚生

- 福祉医療機構退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会従事者共済会加入
- 健康検診受診
- 職員のリフレッシュに伴う食事代等の助成（半額負担）

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

会計管理は、社会福祉サービスセンターと業務提携を結び、毎月の事務管理を協力して行う。労務管理は、多摩労務事務所と業務提携を行う。

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

桜木システムの保育システムを導入しており、出席管理など一元的に管理できるものは、省力化も含めパソコンを通してのデータ管理を行う。

保育については、ソフトを使った情報の収集を心がけ、事務の省力化と、仕事の可視化を目指していく。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

毎月初日に安全点検を主任保育士、保健師立会いの下行う。

イ 建物点検等

建物検査等は、毎年3月にアイコーポレーションに依頼を行う。

今年度は特殊建物検査年。PDシステムに依頼

壁面の状況を勘案しながら、外壁の塗り替え時期を計画する。

(3) 備品関係

ア 備品購入予定

適宜そのときの状況を鑑み、購入を検討

イ 保育用品購入予定

乳児・幼児のおもちゃを発達ごとの課題をしっかりと押さえていけるように積極的に購入する。特に、紙製、木製のものでは、痛み・損傷の度合いによりきれいなもの、子どもが扱いたいと思う観点から購入を進めていく。

ウ 固定資産物品購入予定

適宜そのときの状況を鑑み、購入を検討。なお、その際は、理事会の承認をもらって行うようにする。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回。必ず消火訓練(実地)を行う。

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回) 富士消防設備に委託

ウ 非常食糧の備蓄

○(全児童数+全職員数)×3食×(1日~3日)分

3 地域社会との連携

4月のさくら祭りでは、会場控え室として、園舎を提供する。

10月ハロウィンでは、多摩センター地区連絡協議会と連携を図り、年長児を中心に行事に参加する。

4 その他

第三者評価アンケートを受審し、結果を公表する。(12月の予定)

児童・職員健康管理予定表

	児 童	予算額	職 員	予算額
4月	ギョウチュウ検査	(@120×124) 14,880		
5月			定期健康診断	(@11000×27) 297,000
6月	歯科検診	44,444	〇-157検査(全職員)	(@300*40) 12,000
7月	プール指導			
8月				
9月			救護法指導受講	
10月	年長児就学時検診		〇-157検査(全職員)	(@300*40) 12,000
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				
定期	(毎 月) 布 団 乾 燥 身 長 体 重 測 定 嘱 託 医 来 診	350,000 0 399,996	(毎 月) 給食及び調乳担当者検便	(@300×10×12) 36,000

保育関係		
4月	入園を祝う会 始業式 ギョウチュウ検査 父母懇談会	50,000 14,880
5月	こどもの日 交通公園見学 遠足	 13,000 電車代 10,000
6月	歯科検診 お泊り会	44,444 夕焼け小焼けの里 300,000
7月	プラネタリウム見学 プール開き 七夕	大人料金(4名分) 2,000
9月	防災引渡訓練 父母懇談会	150,000
10月	幼児組運動会 音楽会 さんま焼き会 保育参観(12月まで) 一日体験入園	100,000 100,000 10,000
11月	遠足 芋ほり・芋煮会	電車代 20,000 5,000
12月	餅つき 子ども会	10,000 150,000
		計① 979,324

1月	新年子ども会		
2月	節分 記念写真撮影 一日体験入園		
3月	ひなまつり 父母懇談会 卒園を祝う会	卒園記念品 その他	150,000 120,000
		計②	270,000
		合計①+②	1,249,324

定例行事

誕生会・身体測定・健康診断・避難訓練・布団乾燥・造形指導・お茶の稽古(年長)